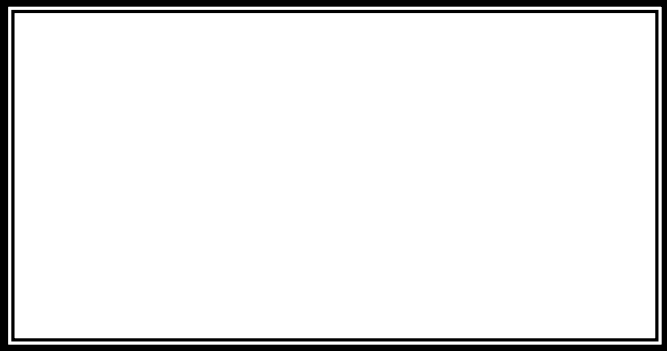


宛先



ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

No. 79

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/lora/index.html>

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/ialt/index.html>

平成26(2014)年12月19日

IALT Council Meeting の開催

国際低平地研究協会(IALT)の Council Meeting が9月28日(日)に開催されました。予算計画、活動計画が議論されました。2015年の活動計画に関する議論では、LTI ジャーナルの発行回数を現在の2回から4回とする目標が定められ、ISLT への参加者や会員数を増やすことで論文の投稿数を増やすことが検討されました。また、本会議に先立って行われた Council member の選挙結果が報告されました。



Council member

第9回 低平地に関する国際シンポジウム ISLT 2014 の開催

9月29日(月)から10月1日(水)の3日間にわたり、ISLT 2014 が開催されました。今回は4年ぶりの佐賀大学での開催でした。投稿された論文数は130編、157人の研究者・技術者が参加しました。

29日の Miura Lecture では、Frans H. M. Van de Ven 博士による「水と気候変動に強い低平地都市づくり」と題した講演がありました。また、各セッションでは活発な研究発表および意見交換が交わされ、盛況のうちに本会を終えることができました。



第2回 月例勉強会の開催

10月30日(木)、佐賀大学理工学部6号館において、「低平地研究に活かす、科学技術コミュニケーション」を題目により、長濱祐美氏(低平地沿岸海域研究センター・センター講師)に話題提供していただきました。科学技術コミュニケーションとは、科学者や専門技術者と一般市民との間における双方向の意見交換を行うおとする概念です。一般市民、技術者、行政および大学が深く関わっている本研究会では貴重な概念です。長濱氏からは最新の動向が紹介され、低平地研究会の発展にどのように活かすのかについて提案していただきました。



長濱祐美講師

歴史専門部会 見学会の開催

11月23日(日)、「筑後地域の博物館を巡る」と題して見学会を行いました。本年度の現地視察は筑後川流域圏における博物館の概要把握が目的であり、三池カルタ・歴史資料館(企画展:「のりものカルタ大集合!」)、柳川古文書館(企画展:「風景王国—柳川ゆかりの洋画家龍駿介がみた山河—」)、清力美術館(企画展:「立木美江 日本画展」)もろどみ一番館を視察し、その存在価値の理解を深めることに努めました。各館の学芸員の方々には紙面をかりてお礼申し上げます。



清力美術館

低平地研究に関する豆知識 -その16-

リスク ー水質に関してー

リスクは、色んな分野で使われていますが、大恐慌の時に経済学の分野で使われ始めたのが語源とも言われています。リスクが高いことと危険度が高いことは必ずしも同じではありません。水質で例えますと、危険な物質で汚染されているとき、安全性を評価するときの濃度として致死量が使われることがあります。これは、ある濃度以上になると（死に至るほど）危険になるといことです。したがって、このような物質を使う時には、ある濃度以下になるようにすれば安全と言えます。ところが物質によっては、人体も含む生物中に残留する性質を持つものもあります。このような物質（食料）を摂取し続けると長い間に体内で蓄積することになり、蓄積量があるレベルを越えると悪い影響が出始めます。このような物質の厄介なことは、環境中の濃度が低くても、例えば、食べ物等を介して体内で高濃度となることです。このような物質を使用しなければ良いのですが、代替の物質がない場合には、リスクという概念で評価せざるを得ません。長期間の蓄積量（通常は一生涯）でもって評価されることが多いようです。（佐賀大学名誉教授・古賀憲一）

センター職員の着任

10月1日付で木梨真知子氏が低平地沿岸海域研究センターの准教授として着任されました。木梨准教授は以前、当センターの講師として着任されており、その後、群馬工業高等専門学校に着任されていました。ご専門は都市計画における防犯対策です。低平地研究会の活動には、低平地研究の編集委員として参加していただく予定です。



低平地研究会活動内容・日程の案内

◆ 第3回月例勉強会 ◆

議 題：佐賀低平地地盤における住宅の不同沈下
話題提供：高森 洋 氏

（株式会社 WASC 基礎地盤研究所・代表取締役）

日 時：平成27年1月16日（金）

15:00～16:30

場 所：佐賀県自治会館4階大会議室

◆ 暮らしと文化専門部会 講演会 ◆

日 時：平成27年2月6日（金）16:00～

※予定の詳細が決定しましたらメールなどで連絡いたします。

会 員 特別会員

動 向 不二コンクリート工業株式会社

弊社は、コンクリート製品の製造・販売を通して社会インフラの整備や豊かな生活環境の実現にお手伝いしてきました。佐賀県内の有明海沿岸部においては軟弱地盤地域が多いことから、地盤対策が絶対条件となっています。そこで、地盤の不陸に追従し、水密性、可とう性に優れたボックスカルバート（SJ-BOX）を導入しました。これからは人々の夢や実りある経済活動を実現する生活環境づくりに挑戦し続けます。



レベル2地震動における
要求性能にも対応

LTI ジャーナル Vol. 16、No. 2 の発行

英文機関紙「Lowland Technology International」Vol. 16、No.2 が発行され、6編の論文が掲載されます。

| Title | Authors |
|--|---|
| ROOT STRENGTH MEASUREMENTS OF VETIVER AND RUZI GRASSES | C. Teerawattanasuk, J. Manecharoen, D.T. Bergado, P. Voottipruex and L.G. Lam |
| FIELD DISPOSITION OF THE MARGINAL STRIP OF THE RIVER DIKE UTILISING WOODEN RAFT AND PILE FOUNDATION ON SOFT CLAY | S. Manandhar, D. Suetsugu, H. Hara and S. Hayashi |
| DEVELOPMENT OF GROUND ENVIRONMENT IMPROVEMENT AND RESTORATION USING THE ROTARY CRUSHING AND DIFFUSIVE MIXING METHOD AS WELL AS ION ADSORPTION METHOD | M. Ohno, N. Nakajima, H. Sahara, Y. Mishima and H. Araki |
| INTEGRATED ASSESSMENT OF CHP SYSTEM UNDER DIFFERENT MANAGEMENT OPTIONS FOR COOPERATIVE HOUSING BLOCK IN LOW-CARBON DEMONSTRATION COMMUNITY | L. Fan, W. Gao and Z. Wang |
| NUMERICAL RESEARCH ON BUILDING VENTILATION SPACE IN THE LAYOUTS OF RESIDENTIAL AREA | X. Ying, W. Zhu and K. Hokao |
| MEASURING PEDESTRIANS' SATISFACTION OF URBAN ENVIRONMENT UNDER TRANSIT ORIENTED DEVELOPMENT (TOD): A CASE STUDY OF BANGKOK METROPOLITAN, THAILAND | P. Iamtrakul and J. Zhang |

編集後記

今冬は暖冬の予報ですが、12月は平均気温よりも低くなるようです。こたつでみかんを食べて風邪を予防します。
編集：三島（佐大:sk9822@cc.saga-u.ac.jp）江頭、日野